

教育班便り

10月

【学校教育の指導の重点】

- 重点1 豊かな心と健やかな体の育成
- 重点2 確かな学力の育成
- 重点3 家庭・地域と連携・協働した
創意ある学校づくりの推進

9月30日をもって、宮城県に適用されていたまん延防止等重点措置が解除されましたが、引き続き新型コロナウイルス感染症対策を講じながら、教育活動を進めていただいていることに感謝申し上げます。10月に入って修学旅行の実施など、少しずつ子供達の活動の場が戻ってきているという話を聞くようになりました。それでは今回は、9月に実施した学級づくり研修会の様子をお伝えします。

学級づくり研修会（授業づくり・学級づくり相談会）(9/15)

「一人一人の居場所がある学級づくり」と題して、「絆づくりと居場所づくり」を軸とした学級経営について、当教育事務所の指導主事が講義を行いました。受講者は、講義の後半で「わたしメッセージ」の演習に挑戦しました。

受講者からは、「共感的理解（わたしメッセージ）について知ることができた。さっそく実践をしてみたい。」「絆づくりと居場所づくりの違いを学ぶことができた。具体的手立てを考えると意識したい。」「子供の考えや思いを受け止め、話を聞くことを心掛けたいと思う。」などの感想が挙げられました。特に演習の場面では、「わたしメッセージと*能動的な聞き方についてのロールプレイ」に熱心に取り組む様子が見られましたので、次頁で紹介します。

研修会終了後、希望した先生方を対象に授業づくり・学級づくり相談会を実施しました。授業づくりや学級づくりに関わる内容だけでなく、日々の実践の中で感じている課題などを参加者同士で共有し、それぞれの課題解決に向けた前向きな話し合いとなりました。



絆づくりや「学力向上に向けた5つの提言」について、理解を深めました。



「わたしメッセージ」で、子供達の言葉へどのように応答するか体験しました。

※本研修では、能動的な聞き方を子供の言葉を繰り返す、言い換える、気持ちを汲むなど、ありのままの子供に寄り添った聞き方とし、自ら考えて解決策を導き出す手法としました。

わたしメッセージ（アイメッセージ）と能動的な聞き方

今回の学級づくり研修会で行った演習の内容について紹介いたします。受講者は、「伝えたい内容の主語を私（教師）にして相手（子供）に伝えること」と「能動的な聞き方」の体験をしました。

以下の例のように子供から言われた時に、教師としてどのように応答するか考え、ロールプレイを行いました。

場面① 「Aちゃんに用事があるから遊べないって、言われたのに私と遊ばずにBちゃん遊んでいるの。」

場面② 「今日の授業は、よく分かりませんでした。」

場面③ 「うちの親は、細かいところまでうるさいんですよ。」

場面①について、受講者が教師と子供の役でロールプレイをした際の一例です。

子供役：「Aちゃんに用事があるから遊べないって、言われたのに私と遊ばずにBちゃんと遊んでいるの。」

先生役：「Aちゃんと遊びたかったんだね。」

子供役：「うん、遊びたかった。でも、Aちゃんは、Bちゃんと遊んでいる。」

先生役：「Bちゃんと遊んでいるのを知ったから、悲しい気持ちになったんだね。」

「Aちゃんといつも遊んでいたんだね。今日は、何か事情があったのかもしれないね。」

子供役：「うん、明日聞いてみる。」

こちらの例では、最終的に子供が自分の行動を決めることにつながりました。子供の気持ちを受け止めた（能動的な）聞き方であったと考えられます。場面②と場面③については、どのような応答例となるでしょうか。ぜひ考えてみてください。



受講者の前で、代表者がロールプレイをしました。「他の先生方の受け答えが参考になった。」「具体の場面で、子供に対する受け答えをイメージすることができた。」などの感想が挙がりました。

お知らせ

10月14日付けの朝刊やテレビ・ラジオ等でご承知のとおり、令和2年度「児童生徒の問題行動・不登校等生徒指導上の諸課題に関する調査（宮城県分）」が公表されました。宮城県教育委員会義務教育課のホームページに掲載されていますので、今後の教育活動に生かしていただければと思います。

